



日本聖公会東京教区 **聖アンデレ教会**  
 牧師 司祭フランシス下条裕章 牧師補 執事スザンナ中村真希  
 〒105-0011東京都港区芝公園 3-6-18  
 電話03-3431-2822 FAX 03-3434-5698  
 E-mail:st-andrew.tko@nssk.org  
 電話礼拝 03-3431-0250  
 Web:http://www.st-andrew-tokyo.com

聖霊降臨後第2主日  
 2022年6月19日

**礼拝案内**

礼拝参加にあたって

※教会ホームページより動画で配信されています。  
 (映像に映りたくない方は、その旨お伝えください。)  
 ※歌いまたは唱えるところは、小声で、または心の中で唱えます。  
 ※マスクを着用し、礼拝中、席の移動はお控えください。  
 ※体調や気分の不調のときは、遠慮なくお申し出ください。  
 ※詳しくは、「礼拝参加にあたって(2022年5月)」等をお読みください。

↑午前7時30分 聖餐式  
 聖歌 468 367 534  
 司式・説教：司祭 下条裕章

↑午前9時15分(第2・第4日曜)  
 こどもとともにささげる礼拝  
 (本日は行いません)

↑午前10時30分 聖餐式  
 司式：司祭 下条裕章  
 入堂聖歌 468

- 参入 1頁(162頁)
- 清めの祈り 1頁(162頁)
- キリエ 2頁(163頁)
- 大栄光の歌 3頁(164頁)
- 特禱(特定7)

すべてのよい賜物を造り、これを与えてくださる力ある神よ、み名を愛する愛をわたしたちの心に植え、まことの信仰を増し加え、すべての善をもって養い、み恵みのうちにこれを保(たも)たせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン

**み言葉**

- 旧約聖書 ゼカ 12章 8-10, 13章 1節
- 詩編 第63編 1-8 (週報4面)
- 使徒書 ガラ 3章 23-29節

福音書前聖歌	419
福音書	ルカ 9章 18-24節
説教	司祭 下条裕章
ニケヤ信経	9頁(166頁)
<諸報告>	
代禱 (週報2面)	12頁(168頁)
懺悔	13頁(170頁)
聖餐	
平和の挨拶	15頁(171頁)
奉献聖歌	367
奉献	15頁(172頁)
感謝聖別 [I] / [II]	16(173/176)頁

陪餐にあたって

※マスク着用のまま、お互いの距離をとり、案内に従って座席後方の通路を経て中央通路を聖卓に進みます。  
 ※祝福を希望される方も同様に進みます。  
 ※陪餐の直前にマスクを外し、手指を消毒します。  
 ※手のひらで、司祭からパン、またはぶどう酒に浸したパンを受けます。  
 ※マスクを着け(必要があれば手指を消毒し)席に最も近い通路部分を通して席に戻ります。

陪餐聖歌	517
感謝	28頁(182頁)
祝福	28頁(183頁)
派遣	
退堂聖歌	534

↑午後5時 夕の礼拝  
 詩 19, 46 サム上 4:12-22 使 15:1-12  
 聖歌 419

聖アンデレ教会にはじめて来られた方へ

ようこそ教会へお越しくださいました。歓迎します。お聞きになりたいこと、分からないことなどありましたら、受付担当者までお声がけください。洗礼・堅信を受け、陪餐の許しのある方は、パンとぶどう酒をいただきます。また他の教派の教会で洗礼を受けて聖餐に与っている方の陪餐を許可し歓迎します。

## 本日の代祷 <敬称略>

一同立つ。

執事は次のように言う。司祭または会衆の代表者が言ってもよい。

執事 救い主イエス・キリストのみ言葉とみ業に頼り、全公会のため、また世界のために祈りましょう

ここで「一のために黙祷しましょう」と言って、感謝と代祷の項目をあげ、会衆に黙祷を求めてもよい。また会衆に感謝と代祷の題目を求めてもよい。黙祷に代えて祈り書中の適当な祈りを用いてもよい。

「ことに」の後に適当な名前をあげてもよい。

各応唱の後に、しばらく黙祷してもよい。

※（ ）内は音読しなくてもよい。

### <わたしたち教会 - 全公会のため>

代祷者 神よ、主の公会、ことに

[聖アンデレ教会 (フランシス下条裕章司祭 /

スザンナ中村真希執事、トマス日高馨輔執事) ]

わたしたち教会の宣教・奉仕の働き

教会に関わる諸団体の働き

[東京教区(フランシスコ・ザビエル高橋宏幸主教)]

聖アンデレ主教座聖堂、教区事務所

聖オルバン教会 (マイケル・D・モイアー司祭)

小金井聖公会、ナザレ修女会 (聖家族礼拝堂)、

モニカ会、東京教区 GFS

[東日本宣教協働区(北海道・東北・北関東・東京教区)]

各教区と宣教協働委員会の働き

北関東教区の教会、施設の働き、ことに栃木聖アルバン教会

[日本聖公会 (首座主教ルカ武藤謙一主教) ]

沖縄週間 (6月19日~25日) を覚えて

中部教区 アシジのフランシス西原廉太主教と

中部教区のすべての働きのため

[アメリカ聖公会メリーランド教区

(ユージン・テラー・サットン主教) ]

ハイランド 聖マルコ教会

ポプラ・スプリングス 聖パウロ教会

フェデラルヒル 降臨教会

[エルサレムおよび中東聖公会

(ホサム・ナウム大主教) ]

アンマン アハリヤー女学校

[全世界の聖公会

(ジャスティン・ウェルビー カンタベリー大主教)]

ランベス会議 (2022年7月27日~8月8日)

南スーダン聖公会のため

[日本キリスト教協議会 (NCC) の働き]

日本基督教団

を強めて、み子のみ業を行わせてください。すべての聖職と信徒、ことにわたしたちの主教

フランシスコ・ザビエル

を導き、み名を呼ぶ者を主の真理と愛のうちに一致させ、日々主の栄光をこの世に現す者とならせてください

会衆 主よ、お聞きください

### <平和と正義の実現のため>

代祷者 神よ、すべての国の人びと、ことに

戦争の終結、世界の平和と和解の実現のため

日本国と世界各国・地域の人びと、ことにそれ

らの指導的立場の人びと

に知恵を与えて正義と平和の道に導いてください。

互いに尊敬する心を与え、ともにすべての人の幸いを求めさせてください

会衆 主よ、お聞きください

### <隣り人のため>

代祷者 神よ、わたしたちと家族、すべての友人と

隣り人、ことに

日々を共に暮らし、また離れて暮らすそれぞれの

家族、友人、同僚、心にかけている人びと

愛と平和と正義の実現のために働く人びと

困難な人びとを支える働きのため、浅草聖ヨハネ

教会日曜給食活動、こども食堂等に関わる人びと

洗礼、堅信、初陪餐、結婚の準備をしている人、

また入信の志願者が与えられるため

聖アンデレ教会に連なるすべての人びと

この地域で生活し、働いている人びと

[今月の代祷・信施奉獻先]

・教区青年活動のため (東京教区青年会)

・国際こども学校の働きのため

(国際こども学校を支援する会)

・きぼうのいえのため

・東京教区神学生のため (聖霊降臨後第2主日)

に恵みを与え、ともに主を知り、主に仕え、互いに愛することができるようにしてください

会衆 主よ、お聞きください

### <困難な状況にある人のため>

代祷者 神よ、悩む人、悲しむ人、病気の人の、貧し

い人、その他災いの中にある人びと、ことに

感染症の収束のため、療養中、困難や悲しみの中

にある人びと、医療と看護、支援に携わる人びと

戦争や暴力、犯罪や差別、また軍事基地の存在の

ため、いのちの危険を感じている人びと

震災や風水害、世界各地の自然災害、また原子力

発電所事故のため、困難な状況にある人びと

孤独な人、祈りの友のない人、希望を見失いつつ

ある人びと

自由を奪われ、拘束されている人びと

住む場所を追われた人びと

[病床にある人]

を顧み、み力を与えて、勇氣と希望を増し加え、  
主の救いの喜びに導いてください

会衆 主よ、お聞きください

### <逝去者のため>

代祷者 神よ、世を去ったすべての人、ことに

[今週逝去の記念日を迎える方々]

戦争や暴力の犠牲となった人

を顧み、彼らの上に主の愛のみ旨を成し遂げてくだ  
さい。わたしたちは主の証人たちに与えられた主の  
恵みのゆえに、み名をたたえます。どうか、わたした  
ちも、彼らとの交わりを保ち、ともにみ国の栄光にあ  
ずからせてください

一同 主よ、これらのことをみ子イエス・キリスト  
によってお願いいたします アーメン

◇ ご家族・少人数での記念式や礼拝参加、牧会訪問、  
自宅や病床での陪餐を希望される方は教会まで  
ご連絡ください。

◇ 聖アンデレ教会広報チャンネルでは、様々な情報  
を配信中です。「今、福音に聴く—ルカによる福  
音書の通読とメッセージ—」ほか。日々の信仰生  
活にお役立てください。

**聖アンデレ教会広報チャンネル**で検索

◇ 聖アンデレ教会フェイスブックページから、折々  
の教会の様子やお知らせをお伝えしています。  
フェイスブックで **聖アンデレ教会**で検索

### 沖縄週間・沖縄慰霊の日

- ・6月19日(日)15時より、沖縄教区  
「慰霊の日」礼拝。主教座聖堂ホームペー  
ジよりライブ配信中継。
- ・管区沖縄の旅 web プログラム 6/22-23 日  
沖縄教区ホームページより参加申し込み  
受付中。

### <お知らせ>

- ◇ 6月26日正午より、アッシャーの研修会が予定  
されています。教会で「人をお迎えする」という  
ことに関して、教会全体で共有したい内容になっ  
ています。是非ご参加ください。
- ◇ 礼拝参加については「礼拝参加にあたって(2022  
年5月)」(掲示/教会ホームページに掲載)を  
ご参照ください。
- ◇ 聖堂の扉は、日中(朝8時頃から夕方5時頃)開  
いています。個人の祈りや黙想が可能です。
- ◇ 聖堂の様子は、動画配信されています。教会ホー  
ムページの「礼拝ライブ配信」をクリックすると  
見ることができます。また主日・週日の礼拝は、  
上の動画配信のほか、礼拝電話(03-3431-0250)か  
ら音声を聴くことができます。
- ◇ 「週報」をメール(またはFAX)で受け取ること  
を希望される方は教会までご連絡ください。(教  
会ホームページには毎週掲載されています。)
- ◇ 教会連絡網への登録をお願いします。メールで  
の連絡(お知らせ、訃報等)をご希望の方は  
st.andrews.tokyo.office@gmail.com へ、(FAX  
で連絡をご希望の方は教会 FAX へ)お名前と連  
絡先をお知らせください。
- ◇ 住所・連絡先に変更がありますときは、教会ま  
で早速ご連絡ください。

## 詩編 第63編 1-8

- 1 神よ、あなたはわたしの神、わたしはあなたを求め // 水のない荒れ果てた土地のように、わたしの魂はあなたを慕い、体はあなたを渴き求める
- 2 聖所であなただけを仰ぎ // み力と栄光を見た
- 3 あなたの恵みは命にまさり // わたしの口はあなたをたたえる
- 4 命ある限り、あなたをほめたたえ // 手を高く上げてみ名を呼び求める
- 5 髓と脂でもてなされたように、わたしの魂は満ち足り // 唇は喜びに溢れ、わたしの口は賛美を歌う
- 6 床の中であなたを思い起こし // 夜通し、あなたのことを思う
- 7 あなたはわたしの助け // み翼の陰にわたしは喜び歌う
- 8 わたしの魂はあなたに頼り // あなたの右手はわたしを支える

## 本日・今週の予定

19日(日) 聖霊降臨後第2主日(特定7)

7時半 聖餐式  
10時半 聖餐式  
17時 夕の礼拝

13時半 教会委員会

20日(月) 7時半 礼拝

王下 17:5-8,13-15 詩 60:1-5,11-12 マタ 7:1-5  
※中村執事聖路加出勤日

21日(火) 7時半 礼拝

王下 19:9b-11,14-21,31-36 詩 48:1-2,8-14 マタ 7:6,12-14

午後 外出予定(下条・中村)

22日(水) 王下 22:8-13,23:1-3 詩 119:33-40 マタ 7:15-20

※下条司祭定休(不在)

外出予定(中村)

23日(木) 7時半 礼拝

王下 24:8-17 詩 79:1-9,11 マタ 7:21-29

18時 教区聖職説教試験(藤田誠聖職候補生/非公開・配信)

24日(金) 洗礼者聖ヨハネ誕生日

7時半 礼拝

イザ 40:1-11 詩 85:7-13 使 13:16-26 マタ 1:57-80

11時 納骨式(青山霊園)

25日(土) 7時半 礼拝

哀 2:2,10-14,18-19 詩 74:1-3,22-23 マタ 8:5-17

11時 逝去者記念式

夕方 外出予定(下条)

26日(日) 聖霊降臨後第3主日(特定8)

7時半 聖餐式

9時15分 こどもとともにささげる礼拝

10時半 聖餐式

王上 19:15-16,19-21 詩 16:5-11

ガラ 5:1,13-25 ルカ 9:51-62

入堂聖歌 260 奉献聖歌 358 退堂聖歌 408

17時 夕の礼拝

正午 アッシャー研修会

## 今週のメッセージ

「わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」(ルカ 9:23) イエスは「ひとりで祈っておられた」後、弟子たちとの対話の中でこの言葉を語ります。ルカ福音書において、イエスが「祈る」とき、洗礼、最初の赦し、12人の弟子の選定、そして受難の前や死の直前など、イエスの出来事において大切な節目となるような時であることを示しています。

イエスに従っていくことが文字通り命をかけることと同義だった初期キリスト教の時代、「自分の十字架」はある意味では分かりやすく信仰を表すものだったのかもしれませんが、しかし、現代社会の私たちにとって「自分の十字架を背負って従う」というのは重い言葉すぎてかえってピンと来ないのかもしれませんが。

イエス様は「自分を捨て、日々、自分の十字架を背負ってわたしに従いなさい」と呼びかけます。「日々、自分の十字架を背負う」。毎日、私たちはイエス様によって新たにされ、イエス様と新たに会います。十字架は何か重い業(ごう)のようなものや、過去の出来事、犯した罪といったイメージも強いですが、「自分を捨て」なければ背負えないものです。それはもしかすると、自分自身を縛り付けたり、頑なにさせてしまうような、経験や知識、思い込みや感情から解放されることを意味しているのかもしれませんが。あらゆる囚われを一旦捨てて、新たにイエス様と出会うこと。その「しるし」が新しいくびき・十字架として私たちの背中に刻まれるもの、負わなければならないものです。それでも捨て去り切れない様々な「私」をもイエス様は認めてくださいます。その「私」ごと背負って、それでもなおイエス様に従っていく道に、十字架のしるしが示されていくのではないのでしょうか。

「あなたがたはわたしを何者だというのか」。それはイエス様から日々問われている私たちへの投げかけです。イエス様を私たちの主として宣言するなら、私を捨て、私を負い、イエス様に従う道を日々選んでいきたいと願います。

執事 スザンナ中村真希